

北海道内における鉄路の維持・存続に関する要請

北海道の鉄道路線については、過疎化に伴う利用者の減少や、相次ぐ事故や災害の影響による経費の増加で収支が悪化しています。

こうしたもとで、JR北海道は、13線区の計1237.2kmについて「当社単独では維持することが困難」とし、鉄道の廃止や上下分離方式の導入などの協議を沿線自治体と進める方針を打ち出し、各地域での議論を展開しています。

しかしながら、現状では、JR北海道は減便・駅の廃止・特急列車の運行体制の見直しなどを先行し、高齢化が進む地域住民に対する交通の確保など地域交通網の在り方の論議を置き去りに、単に不採算路線の廃止といった赤字解消を図るための動きが目立っています。

一方、食料基地北海道においては、農畜産物を大消費地に安定供給を図る輸送面でも鉄路は公益性が高い交通機関として不可欠なものであり、地域経済や農村社会の維持にも重要な位置づけとなっています。とりわけ、石北線におけるタマネギ列車は、今年の台風災害において農産物の輸送が滞るなど大きな影響を及ぼしており、地域にとっては路線存続とともに、輸送体制にも深刻な問題を抱えています。

については、地域住民や沿線自治体の声に耳を傾け、地域交通並びに農産物の輸送手段の安定確保などに向けて、尽力されますよう下記のとおり要請致します。

記

1. 鉄道路線は、道民の交通路や農産物輸送として重要であるため、北海道が先頭に立ち、国、JR北海道などと一体になって維持・存続に取り組むよう関係機関に働きかけること。
2. 鉄路は公益性が高い交通機関であり、国の責務が極めて大きいことから、財政を含め国の全面的な支援・協力を求めること。

2017（平成29）年 5月 日

北海道農民連盟
委員長 西原正行